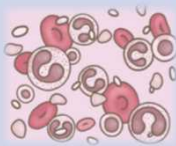


赤血球系・白血球系・止血系

	項目	説明	疑われる疾患や異常例
赤血球系	赤血球数 (RBC)	赤血球は酸素を肺から臓器や組織にある細胞まで運ぶ役目をしています。赤血球を含む血液は動脈を通じて全身に運ばれ、動脈から枝分かれした毛細血管を通じて全身に酸素を運びます。	高値：多血症、血液濃縮など 低値：貧血
	血色素量 (Hb)	血色素は赤血球に含まれる成分です。鉄イオンとタンパク質の一種でできた物質で、血液の赤さのもとになっています。酸素との結合力が強く、肺に入った空気中の酸素と瞬間的に結びつきます。	
	Ht (ヘマトクリット)	Ht は、血液に占める赤血球（固形成分）の割合をいいます。	
	MCV MCH MCHC	<p>MCV(平均赤血球容積) 個々の赤血球の大きさを算出したもの</p> <p>MCH(平均赤血球血色素量) 個々の赤血球あたりの平均的な血色素の量を算出したもの</p> <p>MCHC(平均赤血球血色素濃度) 個々の赤血球あたりの血色素濃度を算出したもの</p> <p>※上記の相互関係により貧血の種類を推定することができます。</p>	
白血球系	白血球数 (WBC)	白血球には好中球（桿状核球と分葉核球）、好酸球、好塩基球、単球とリンパ球があります。それぞれ役割を分担して、体内に入ってきた細菌やウイルスなどの外敵と戦う大切な働きをしています。	<p>【高値】白血病、細菌感染症、（急性期の）心筋梗塞、外傷・出血、喫煙、ステロイド投与など</p> <p>【低値】無顆粒球症、SLE（全身性エリテマトーデス）、再生不良性貧血、薬剤性など</p>
止血系	血小板数	血小板は出血時に血液を凝固させて止血する働きを持っています。	<p>【高値】真性多血症、本態性血小板減少症、慢性骨髄性白血病など</p> <p>【低値】再生不良性貧血、急性白血病、ウイルス性感染、特発性血小板減少性紫斑病など</p>